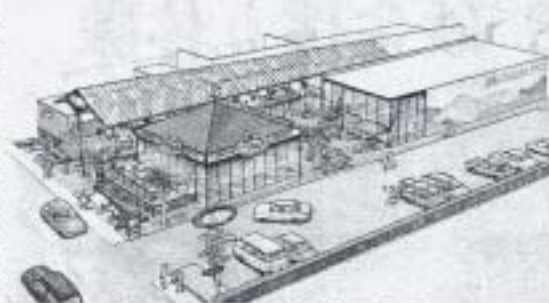


宮代町出資のまちづくり会社

共同店舗で客足再び 来年3月開店目指す

宮代町や同町商工会員などの出資で、中心市街地活性化に向けたまちづくり事業に取り組み株式会社「ティーエムオーみやしろ」(坂巻善作社長)が、事業展開の核と位置づける「共同店舗」の建設事業がスタートした。東武動物公園駅西口の総面積約700平方メートルのテナント施設内で、町内外の生鮮品店や日用品店などに売り場を構えてもらい、にぎわいある商業空間を創出しようというもので、来年3月のオープンを目指している。



共同店舗の完成予想図(ティーエムオーみやしろ提供)

共同店舗の名前は「るーばんMIYASHIRO」。には地域交流の拠点として田舎と都会の両方の面を併せ持つ同町の地域特性にちなみ、英語の「ルーラル」(田舎の)と「アーバン」(都会の)を掛け合わせたという。

1階部分は、1階部分は、売れ場スペース、2階部分には地域の交流の拠点として、多目的スペースなどが設けられる予定だ。今回の計画の最大の狙いは、地元商店街から連なっていたといわれる客足を、もう一度呼び戻すことにある。

出し広告や集客イベントを考えているが、資金的に困難な場合が多いが、共同店舗形式なら同社と出店者が費用を分担することで、大きく開業することも可能となるだけに、関係者は「空き店舗が増え、かつてのにぎわいは失われている」(坂巻社長)という現状を打開する起爆剤となることを期待している。

同社は、宮代町の中心市街地活性化基本計画に基づき、昨年3月に設立。資本金3000万円のうち、宮代町が3分の1を出資した。

同社は、現在の商店街に最も不足しているものとして、生鮮品や日用品などを扱う身近な店や、喫茶店のような交流空間を挙げており、共同店舗にはこうした側面を補完する役割を担わせたいとしている。

個々の店単独では、売り

H17.10.15 読売新聞に掲載された記事

オープンが待ち遠しい ルーバンみやしろ

当社では、宮代町の新しい商業の拠点となる共同小売店舗「ルーバンみやしろ」の施工を請け負っており、す。建物は設計事務所によるシンプルなデザインのためにも宮代らしさを取り入れたものになっています。

来年3月のオープンに向けて施工が進んでおり、当社ホームページにて随時報告させて頂く予定です。

町の商業の活性化と人々の交流の場ができるのは、とても楽しみですね。

